



THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

日版工務新聞

7月18日水曜日

2018年(平成30年)

第19470号

発行所 日刊建設工業新聞社
〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10
電話03(3433)7151 http://www.decn.co.jp/
©日刊建設工業新聞社 2018
印刷 電話03-3433-7161 mai-ed@decn.co.jp
編集 電話03-3433-7152 mai-ed@decn.co.jp
広告 電話03-3433-7154 ei-adv@decn.co.jp

明治維新150年と治水の歴史

三 征 林 竹

〈20〉物部長穂の思いもよらなかつた事

目的ダム論に基づき五十里ダムのほか、多数のダムが築造された。物部博士の多目的ダム論はまさに合理的で、それを法制化したのが多目的ダム法である。物部博士の合理的設計論を追求した貯水池運用が制限水位方式だ。洪水期と非洪水期で貯水池水位を急激に上昇、下降させることで、貯水池に帯状の斜面裸地ができる。斜面の植生が急激な水位変動に追従できず、さらに斜面表土が流出する。その結果、これまで山間地の貯水池は実に素晴らしい景観をつくってくれ、水辺も生態系として良好なものだった。破壊のシンボルになってしまった。

「本邦の如き風土にありては如何にして至健全廉の堰堤を築造すべきかにつき充分な研究を要する。貯水事業の工費の大半を占むるものは実に堰堤築造費なり、而して河水調整池にありては可及的大なる堰堤を設け、一挙に大池積と高落差とを得るも以って利不健不健は一に堰堤の安危如何に在す」

「本邦の如き風土にありては如何にして至健全廉の堰堤を築造すべきかにつき充分な研究を要する。貯水事業の工費の大半を占むるものは実に堰堤築造費なり、而して河水調整池にありては可及的大なる堰堤を設け、一挙に大池積と高落差とを得るも以って利不健不健は一に堰堤の安危如何に在す」

「本邦の如き風土にありては如何にして至健全廉の堰堤を築造すべきかにつき充分な研究を要する。貯水事業の工費の大半を占むるものは実に堰堤築造費なり、而して河水調整池にありては可及的大なる堰堤を設け、一挙に大池積と高落差とを得るも以って利不健不健は一に堰堤の安危如何に在す」

「本邦の如き風土にありては如何にして至健全廉の堰堤を築造すべきかにつき充分な研究を要する。貯水事業の工費の大半を占むるものは実に堰堤築造費なり、而して河水調整池にありては可及的大なる堰堤を設け、一挙に大池積と高落差とを得るも以って利不健不健は一に堰堤の安危如何に在す」

合理化を過度に追及しす治水、水道料金に転嫁する(長)

週一回掲載

(第3種郵便物認可)

総合

工学博士の物部長穂(1888~1941年)は土木の天才である。物部と言えば名著『水理学』が真っ先に思い出される。後世の人は物部水理学という。『水理学』とともに画期的な耐震設計法『土木耐震学』を1933(昭和8)年、世に送り出した。38歳で内務省の土木試験所の所長に就任。所長は勅任官で10年の飛び抜てき人事だった。東京大学の教授も兼務。数々の素晴らしい功績の中でも群を抜き、世の中を大きく変えたのが「多目的ダム論」だろう。

1924(大正13)年に発表した多目的ダム論は画期的な論文といわれる。1926(大正15、昭和元)年に内務省土木試験所第8代所長として、河川総合開

発事業構想を発表した。1937(昭和12)年には物部理論による河水統制事業が開始された。水源から河口まで河川全体にわたって砂防、治水、利水を一括して考える。夏場はダムを洪水のため治水容量を主として使い、冬場はこの部分を貯水容量をとし、従って事業それ自身健全不健は一に堰堤の安危如何に在す

「本邦の如き風土にありては如何にして至健全廉の堰堤を築造すべきかにつき充分な研究を要する。貯水事業の工費の大半を占むるものは実に堰堤築造費なり、而して河水調整池にありては可及的大なる堰堤を設け、一挙に大池積と高落差とを得るも以って利不健不健は一に堰堤の安危如何に在す」

「本邦の如き風土にありては如何にして至健全廉の堰堤を築造すべきかにつき充分な研究を要する。貯水事業の工費の大半を占むるものは実に堰堤築造費なり、而して河水調整池にありては可及的大なる堰堤を設け、一挙に大池積と高落差とを得るも以って利不健不健は一に堰堤の安危如何に在す」

「本邦の如き風土にありては如何にして至健全廉の堰堤を築造すべきかにつき充分な研究を要する。貯水事業の工費の大半を占むるものは実に堰堤築造費なり、而して河水調整池にありては可及的大なる堰堤を設け、一挙に大池積と高落差とを得るも以って利不健不健は一に堰堤の安危如何に在す」